

八王子市×東京造形大学「食品ロス削減プロジェクト」 ～地元自治体との連携により、食べ残しゼロを呼びかけ～

「食品ロス」の削減を目指す八王子市と包括連携協定を結ぶ東京造形大学が「食品ロス削減プロジェクト」を発足した。

日本国内での食品廃棄量のうち、食べ残しや売れ残りなど、本来食べられたはずの「食品ロス」は、年間600万トンを超えると言われている。八王子市のごみについても、可燃ごみのうち、生ごみは約4割と高い割合を占めている。

そこで、同市の「食品ロス」削減に向けた解決策を本学の授業（サステナブルデザイン論D）で検討。学生から提案されたアイデアが採用された。また、ポスター及びステッカーについても本学の学生がデザインを手がけた。

このプロジェクトでは、市内の飲食店の協力のもと食べ切りを呼びかけ、「もったいない」の意識を浸透させ、飲食店から出る生ごみの削減を目指す。

本学では、2009年より、地元自治体の職員を講師として招き、地元地域の環境活動の現状と課題、その解決方法について学ぶ授業を行っている。

1. 市内飲食店の協力のもと呼びかけ

啓発用のステッカー（右）及びポスターを市内の飲食店に掲示し、食べ切りを呼びかける取り組みを開始。送別会・歓迎会のシーズンにあわせ、3月29日から八王子駅前の10店舗でスタートした。割引など独自のキャンペーンを行う店舗もある。現在、協力店舗は100店以上。今後は、小学校などの教育現場でも掲示を呼びかけ、食への感謝を伝えることで、食品ロス問題について広く考えてもらうきっかけとする。



2. 学生考案のデザインを実用化

昨年11月、東京造形大学山際康之教授（今年4月より本学の新学長に就任）の指導のもと、食品ロス問題を扱う授業を実施。解決策について学生から提案されたアイデアを採用し、本プロジェクトを実現させた。ポスター及びステッカーについても、学生ならではの発想をいかしたデザインを採用した。

<お問い合わせ>東京造形大学 総合企画室 電話：042-637-8755
e-mail：kikaku@zokei.ac.jp